

平成26年第3回横手市議会6月定例会 一 般 質 問 要 旨

■ 一般質問の日程

平成26年6月16日（月）～18日（水） 本会議

※午前10時、開会の予定です。

■ 一般質問の順序

期日	順番	議席番号	議 員 名	頁
16日	1	10番	青 山 豊 議員	1
	2	9番	播 磨 博 一 議員	2
	3	13番	本 間 利 博 議員	3
17日	4	3番	立 身 万 千 子 議員	4
	5	7番	土 田 百 合 子 議員	6
	6	12番	奥 山 豊 和 議員	8
18日	7	15番	土 田 祐 輝 議員	9
	8	14番	菅 原 正 志 議員	10
	9	4番	斎 藤 勇 議員	11

1. 【10番 青山 豊 議員】

1. 災害対応型自動販売機の設置について

底堅い災害対策を図るために、市役所各庁舎や避難所となっている公共施設に災害対応型の自動販売機設置を提案する。

- 1) 入札による自販機設置の際に、適宜、災害対応型自販機を設置していく考えはあるのか。
- 2) Wi-Fi+非常食供給機能を加えた災害対応型自販機設置について伺う。

2. 来年度以降の市役所体制について

定年による職員の大量退職、いわゆる「2015年問題」を控え、来年度以降もしっかりとした体制を構築するための方策が求められている。その中で、係長職、とりわけ40歳代の係長の「質」をさらに高めていくことが必要だと考えるが、市長も同じ認識なのか伺う。

3. 「第29回国民文化祭・あきた2014」について

- 1) 現時点での国民文化祭に対する市一体となった盛り上がりについての市長の感触とこれからの市民に対する周知方法を具体的に伺う。
- 2) 全国から来訪される方々に「お金を落として」いただく具体策を伺う。
- 3) 国民文化祭を契機にどうやって横手市の文化振興を図っていくのか。

2. 【9番 播磨 博一 議員】

1. 4年連続の大雪をうけて

- 1) 4年続きの大雪で除雪費も増大しているが、市としてこれをどのように評価しているか。
- 2) 雪下ろし作業による人的被害が42件も発生しているが、市として雪下ろし作業の安全対策にもっと力を入れるべきではないか。
- 3) 一般的に公共施設の耐雪度は高いと思うが、雪やつららの落下危険性、積雪時の耐震性など不安材料もないわけではない。雪下ろしはどうなっているのか。
- 4) 除雪作業中にもっと多くの雪押し場があればとの声がある。市として積極的に確保に力を入れてはどうか。
- 5) 雪捨場（赤坂総合公園駐車場）の現状を見て対策を考えるべきではないか。
- 6) 流雪、融雪溝の効果は非常に大きいと思う。今後の整備計画はあるか。また、現在稼働中の施設の維持管理は現状で問題はないか。
- 7) 雪による農業被害が12億3000万円発生している。雪害対策事業の申し込み状況はどうか。その理由は。また、果樹強靱化対策事業が始まるようだが、プラスして幅広く民間や公的機関のノウハウを集め横手型を作っていくのはどうか。これは施設関係にもいえると思うが。
- 8) 市内4地区の雪下ろし共助組織の現状はどうか。市ではどんな支援をしているのか。また、そのノウハウを利用した組織づくり等は考えていないのか。

2. 仮称、横手市産業祭の開催について

- 1) 合併前は各地域局ごとに内容に多少の違いはあれ産業祭が開催されていた。来年合併10周年を迎えるにあたり市内一同の産業祭も意味があると思う。一考してみてもどうか。

3. 【13番 本間 利博 議員】

1. 雪対策について

- 1) 総合雪対策基本計画の進捗状況について問う。
- 2) 「自然エネルギー活用研究会」の内容と市の取り組みを問う。

2. 公共施設の月曜休館について

- 1) 資料館、体育施設等の月曜休館の必要性について問う。

3. クリーンプラザよこての運営事業について

- 1) クリーンプラザよこて全体事業費の財源内訳と今後の財政運営について問う。
- 2) 施設運営委託後の現在の非常勤職員の待遇について問う。

4. 【3番 立身 万千子 議員】

1. 新制度の下での児童福祉における市の役割について

- 1) 横手市子ども子育て支援事業計画の策定にあたって。
 - ① ニーズ調査の結果から引き出される課題のうち「保育の必要性の要件」についての基本的考え方を問う。
 - ② 保育の必要料金（特に短時間保育）の下限について問う。
 - ③ 小規模保育事業の設備と運営の基準となる考えを問う。
 - ④ 学童保育の設置・運営基準をどんな考えのもとに設定するか。
 - ⑤ 認定こども園について横手市としての考え方を問う。
- 2) 子育て三法に規定される就学前の「子ども子育て事業」と18歳までを対象とする「次世代育成支援事業」との関連について。
- 3) 子育て支援の重要な施策である医療費無料化を中学校卒業まで拡充することについて。

2. 横手市の認知症対策について

全国13自治体のモデル事業を基に、国は2015年度から介護保険制度を変える方針を出している。特に懸念されるのは、要支援1と2の区分を保険からはずすことである。市内の要支援認定者の中にも認知症状が認められる人は数多く、デイサービスやホームヘルプの事業を介護保険で手立てしてこそ認知症予防の意義・効果があると考えことから次の点について質問する。

- 1) 横手市の実態（各区分認定者と介護保険利用者の数、認知症対応事業所の数）を問う。
- 2) 認知症についての理解を深める手立てと実施事業の検証について。
- 3) 認知症の予防をどう推進してきたか。今後の課題は何か。

- 4) 認知症の早期発見と発見後の対策について。
- 5) 認知症高齢者の見守り、特に徘徊見守り訓練の成果と課題は何か。
- 6) 医療との連携について実情と課題は何か。
- 7) 権利擁護について実情と今後の課題は何か。
- 8) 家族への支援は組織的な体制になっているか。

5. 【7番 土田 百合子 議員】

1. 人口減少時代のまちづくりについて

- 1) 国が公表した人口推計では、2040年（平成52年）の横手市の人口は6万3466人となり、高齢化率は42.9パーセントになると見込まれている。15歳から64歳までの生産年齢人口は45.7パーセントと大幅に減少し、高齢者1人を1.1人で支えることとなる。このような現状から、横手市総合計画の最終年度となる平成27年までに、人口減少時代のまちづくりを市長はどのように描いているのか伺う。

2. 地域包括ケアシステムの推進について

- 1) 当市では、すでに大森病院が15年ほど前から地域包括ケアシステムを推進しており、県内に先駆けて包括ケアシステムの構築のモデル地域として2012年度から国のモデル事業に選ばれ取り組んでいる。今後、包括システム構築に向けた政策形成のための地域ケア会議の定期的な実施や住民の理解を促進するサポーターの養成、市役所における地域包括ケアの専門部署の設置などが重要な課題である。当市の包括ケアシステムの推進についての考えを伺う。
- 2) 条例を制定し「協議会」設置の提案について。
三重県桑名市は、昨年12月に地域包括ケアシステム推進協議会条例を全国に先駆けて制定し取り組んでいる。条例では、医療、介護、住まい、生活支援などを日常生活圏で一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築に向けた協議会の設置を明記するとともに、組織形態や運営方法などを定めている。条例を制定し、取り組む考えについて伺う。

3. 子ども権利条例制定について

- 1) 横手市次世代育成支援地域行動計画の最終年度となる本年、「子ども・子育て新制度」への移行となった場合に、横手市「子ども権利条例」を制定し取り組む考えについて伺う。

4. 横手市男女共同参画行動計画について

- 1) 各種審議会委員の女性比率、行政委員会の女性比率、女性の人材リストの作成と活用、市の広報を活用した男女共同参画についての意識啓発など、目標に向けての取り組みを伺う。さらに、「男女共同参画推進条例の制定」について市長の見解を伺う。

5. 横手市子ども読書活動推進計画について

- 1) 絵本を通して親子の触れ合いを支援している「ハートフルブック事業」について。
アンケート調査から「初めての絵本ということでとてもよかったのですが、2、3年毎に違う絵本にしてもらった方が姉妹で同じ絵本にならないのもっと良いと思う」、「頂いた本が、すでに持っていたので数冊から選べたらうれしい」といった意見や要望がある。当市の今後の取り組みについて伺う。
- 2) 読書通帳について。
本に親しむ子どもを増やそうと、小学生を対象に読書通帳サービスを導入して取り組んでいる自治体がある。このサービスは、借りた本の履歴が一目で確認できるもので、小学生の読書意欲を促進することを目的としている。「読書通帳」の取り組みを提案したいと思うが考えを伺う。

6. 【12番 奥山 豊和 議員】

1. 人口減少対策について

1) このほど、日本創成会議による「2040年、若年女性の流出により全国896の市区町村が消滅の危機に直面する」という試算が発表された。

秋田県は全国一消滅可能性都市の割合が高く、また人口減少率や高齢化率も全国一という状況の中で、横手市としてこの試算をどのように受け止め、分析をしているか。

2) 今度、どのような対策を考えているか。

① 人口減少が進むに従って生じる課題にどのように対応していくのか。

② どのような形で地域社会を維持し、自治体運営を行いながら行政サービスを提供していくのか。

③ 人口減少を食い止めるための具体策について問う。

7. 【15番 土田 祐輝 議員】

1. 当市の中・長期財政見通しから

- 1) 来年度から収支不足が予想される。地方交付税の特例措置が期限切れを迎える中で、こうした状況が今後続いていくことをどう認識しているのか。また、その危機の度合いはどの程度のものか。
- 2) 特に、平成33年度には普通交付税が通常算定になり、約50億円もの減額となる。想定内とはいえ、痛みを伴う大幅な改革が必要だろうと思う。
具体的な歳出削減の手法と市民生活に及ぼす影響について伺う。
- 3) 平成28年から第2期横手市総合計画がスタートする。財政難の折、特色あるコンパクトなまちづくりが求められるが、市長が目指す横手の将来像を述べて頂きたい。

2. 市内の民間温泉施設について市のスタンスを問う。

- 1) かんぼの宿が8月で閉鎖になるという。源泉は市で管理している物件であり、「何らかの形で存続してほしい」との多くの市民の声もある。現況について伺う。
- 2) このほか、市内には民間温泉施設が複数ある。にぎわいの創出や雇用、税収面で多大な貢献をしているが、反面、市営温泉との競合にさらされている側面もある。
こうした状況について、市はどのような認識を持っているのか伺う。

8. 【14番 菅原 正志 議員】

1. 均衡ある発展について

- 1) 合併10年を控えて、8地域局体制からブロック体制に移行する考えはないか。
- 2) 公民館への職員の配置の考え方について。

2. 地元業者の育成を考えた契約について

- 1) 参加資格を今一度確認すべきではないか。
- 2) 複数年契約を導入する考えはないか。

3. スポーツ立市について

- 1) 予算規模をどのように考えるか。
- 2) スポーツ振興課を市長部局に設置する考えはないか。
- 3) 中学校部活動において拠点校化を推進するために指導者の配置や年数を考慮すべきではないか。

9. 【4番 斎藤 勇 議員】

1. 政府の「農業改革に関する意見書」について

- 1) JA中央会の廃止や農業委員会の「骨抜き」など全面見直し、また農政に関わる規制や関連組織などの大幅な改変を求め、さらに企業の農地所有を解禁することと地方・当地への影響について問う。

2. 「攻めの農業・果樹産地強靱化事業」について

- 1) 農産物の価格低迷でコスト低減が一層求められ、圃場の大規模化や機械の大型化などが進められている。また、地元要望や課題に応えるとなれば市独自の確かな施策が欠かせない。この間の関連事業を含めて問う。

平成26年6月定例会日程予定【会期17日間】

—— **本会議** 午前10時開会予定です・傍聴できます ——

◇6月9日（月）〔開会〕 所信説明、議案審査 ほか

◆6月16日（月） 一般質問

◆6月17日（火） 一般質問

◆6月18日（水） 一般質問 ほか

◇6月25日（水） 委員長報告 ほか 〔閉会〕

— 傍聴席は横手庁舎の7階です —

—— **委員会** ——

◇6月9日（月） 一般会計予算特別委員会

◇6月19日（木）～20日（金） 常任委員会

◇6月25日（水） 一般会計予算特別委員会

横手市

検索

横手市のホームページにあります、

議会のコーナーをクリックしてください。

本会議録画・会議記録・市議会だよりを
いつでもご覧いただけます。

◇ 横手市議会事務局 ◇

〒013-0023 横手市中央町8番2号（横手市役所 本庁舎 6階）

TEL：0182-32-2535 FAX：0182-32-6539

E-mail：gikai@city.yokote.lg.jp

横手市議会マスコットキャラクター

“しらとり議員”

